

HITO NEWS

H I T O
M E D I C A L
C E N T E R
N E W S

2014.4

No.03

病院長ごあいさつ

シリーズ：4疾病をよく知ろう

第三回「化学療法」

第四回「機能的脳神経外科」

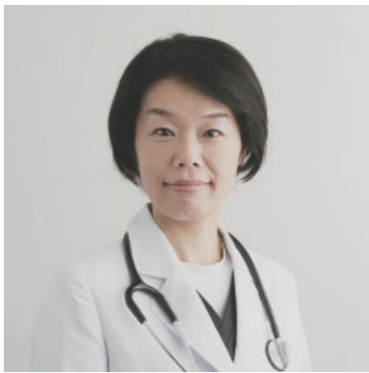
新任医師紹介

スタッフコラム

TOPICS



病院長ごあいさつ



社会医療法人石川記念会
HITO病院 病院長 石川 賀代

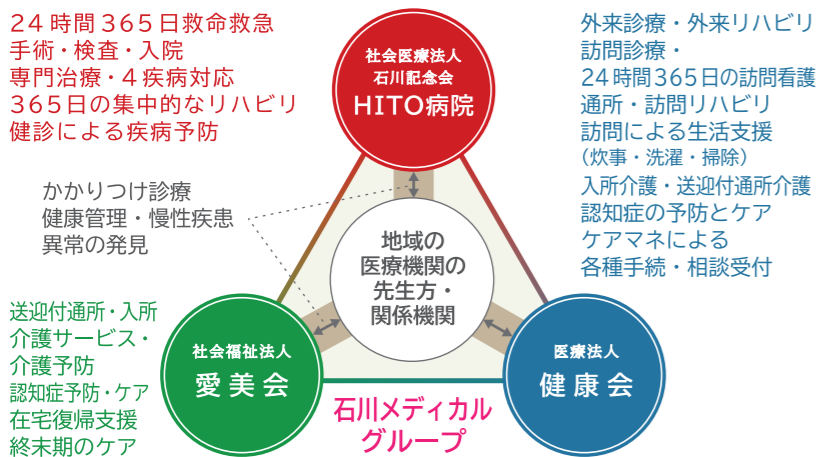
新年度を迎え、医師をはじめ看護師、薬剤師等総勢67名の職員が入職しました。特に看護師においては、例年よりも相当数上回り、昨年に続き多くの職員を迎えることができ、大変嬉しく思います。高い志を持ち、大きく成長し、病院の新たな力となってくれる事を期待しています。

医局の新体制について

・県立中央病院の副院長を務めておられた消化器外科を専門とする喜安佳人先生が着任され、消化器疾患や消化器がん

石川メディカルグループ

・石川メディカルグループの動きとしては、新施設が建築されたことで、石川クリニックがリニューアルオープン、介護老人保健施設アイリスが110床へ増床し、維持期・回復期の治療がより強化されました。特に在宅復帰までのリハビリに力を入れており、外来・通所・訪問リハビリまで



などの診療・治療にご活躍いただきます。

・がん患者さまや、女性特有の病気に対応するべく、産婦人科を専門とする小川晴幾先生が着任され、婦人科を開設しました。治療だけではなく、婦人科検診やがん検診による予防にも力を入れていきます。

・リハビリ機能の強化を図るため、回復期リハビリテーション病棟の専従医として井上愛先生が着任されました。重症度の高い患者さまをより改善した上でご自宅に退院できるように入院早期からのリハビリテーション体制を強化していきます。



幅広くカバーし、在宅までのサポート力を高めました。急性期を担うHITO病院から維持期・回復期・予防までを含めた施設が集まることで、より連携しやすい環境となっております。

・地域密着型介護老人福祉施設「三島の杜」が新設され、ミニ特養・グループホーム・ショートステイ・デイサービスを提供し、認知症ケアや看取り介護への支援を強化します。

グループ全体の窓口はこちら
「総合相談窓口」
TEL:0896-58-6005
FAX:0896-59-1163

- グループ全体の窓口
- 介護サービス案内
- 施設選定支援
- 介護保険関係相談
- 各種手続き相談
- 認知症の相談・支援

・9月には、サービス付き高齢者向け住宅「レインボー」が新設予定で、要介護・要支援の方が入所し、安否確認や生活に関わるサービスの支援を受けることができます。

・形成外科・美容外科は、中西秀樹先生に専門外来・手術を含めてさらに専門性の高い体制を強化します。

・脳神経外科では、非常勤にて松井誠司先生が脊椎・脊髄疾患などを専門として診療を開始し、高齢者特有の疾患に対応いたします。

・新たに開設した歯科においては、坂宗尚先生が非常勤にて勤務され、入院患者さまの口腔ケア（特に脳卒中・肺炎で入院されている方）や術後の口腔ケア、抗がん剤治療における口腔機能管理を行います。口腔管理を行うことで、合併症の予防や抗がん剤治療における口腔内有害事象に備えます。また、摂食機能訓練を行い、咀嚼機能を維持することで健康に繋げて参ります。

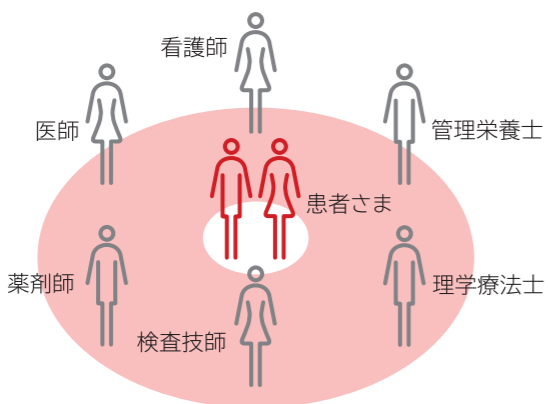
愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療再生学講座 「地域サテライトセンター」について

地域サテライトセンターに脳神経外科を専門とする久門良明先生が着任され、脳卒中や脳腫瘍など脳神経疾患の予防や治療に

今年度の取り組み

・4疾病強化の一環として、糖尿病合併症外来や消化器がん化学療法専門外来を開始しました。糖尿病合併症外来は、医師（糖尿病専門医）、管理栄養士、看護師（糖尿病療養指導士）、薬剤師、検査技師、理学療法士がチームで治療に取り組んでいきます。

糖尿病治療におけるチーム体制



また、化学療法室の充実や消化器がん化学療法専門外来の開始により、化学療法や外来によるがん治療が可能となったことで、継続したがん治療に対応する体

取り組んでいただきます。また、間島直彦先生は、関節外科や人工関節、スポーツ整形などを専門とし、整形外科疾患の診療・治療に取り組んでいただきます。

脳卒中センター開設

脳卒中センターを新設することで、一刻を争う脳卒中に対して、より迅速な診断・治療を提供できるよう取り組んでいきます。また、脳卒中の患者さまが罹患後に身体機能を最大限に回復し、日常生活の自立度を向上させるから、ご自宅に帰ることができるようリハビリテーションとの連携支援も強化します。

附属保育所HITOKIDS新設

職員が安心して仕事に専念できるように、24時間対応可能な附属保育所「HITOKIDS」を新しく病院に併設しました。職員が子育てをしながらも働ける支援体制を整えます。

制が整備されました。

・HCUを10床として、超急性期への対応を強化し、時間との勝負である脳・心臓疾患を含めて急性期医療への取り組みを強めます。

・病気や高齢で身体が不自由になっても、包括的な医療・介護を提供し、住みなれた地域で永く暮らせるように、「地域連携室」を「地域医療介護連携課」と名称変更し、地域の医療機関や関連施設・グループとの連携をさらに強化します。

・さらなる良質なサービス提供のために、職員が委員会チーム活動で積極的に勉強会を開催し、また各自が行動に責任を持ち、リスク回避のための行動が取れるように、医療の標準化に取り組めます。最後に、今年度は超急性期から在宅復帰までのサポート体制を強化し、地域の皆さまの「いきるを支える」ことができるよう、医療・介護・福祉を継続して提供いたします。

今年度も、地域の皆様の変わらぬご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

シリーズ
4 疾病について
よく知ろう

- がん
- 脳卒中
- 急性心筋梗塞
- 糖尿病



外科(がん薬物療法)部長
化学療法室 室長
いのうえ なおや
井上 直也

外来で化学療法が
受けられます

外来化学療法とは

一般的に、「がん」に対する(注射)抗がん剤治療を外来通院で実施することを「外来化学療法」といい、専用の部屋が用意されます。当院では、2013年4月の新病院オープンと同時に、外来1階に「化学療法室」が設置されました。

連携治療スタッフ



まれに重篤な副作用が起こることもあり、それに対処できる設備・体制で安全に治療を受けていただける環境を整備しています。
・医師、看護師、薬剤師がそれぞれの技能を生かし連携して治療にあたります。
【看護師】問診を行い、治療中も全身状態を観察します。生活上の相談がある場合も専任看護師等にまずご相談ください。
【薬剤師】化学療法室の隣に抗がん剤を調製(薬剤を溶かしたり混ぜたりする準備を行う)するための「安全キャビネット」を備えた調剤室があり、専任の

安全キャビネット



薬剤師を中心に服薬指導や調製を行います。

【医師】各科担当医とともに、化学療法室担当医師(室長・がん治療認定医)が治療にあたります。

【チーム医療】化学療法室では、医師、看護師、薬剤師が連携して治療にあたります。また、定期的に「がん症例検討カンファレンス」を行っており、医師、看護師(外来・入院)、薬剤師の他、管理栄養士、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカー(MSW)なども加わり、チーム医療に必要な情報共有を行っています。

ひと昔前まで、抗がん剤治療には厳しい副作用が伴い、入院で行うことが普通でした。しかし、副作用、特に吐き気や嘔吐を抑える対策の進歩があり、2002年頃から国が外来での通院化学療法を後押しする制度が始まりました(外来化学療法加算)。現在では多くの病院で、外来化学療法が行われています。なお、「がん」治療ではありませんが、がんが関与する潰瘍性大腸炎などに対する生物学的製剤の投与も外来化学療法室で実施します。

外来化学療法の
利点と注意点

外来化学療法の利点は、患者さまが病院にいる時間が短いことです。慣れない制限のある入院

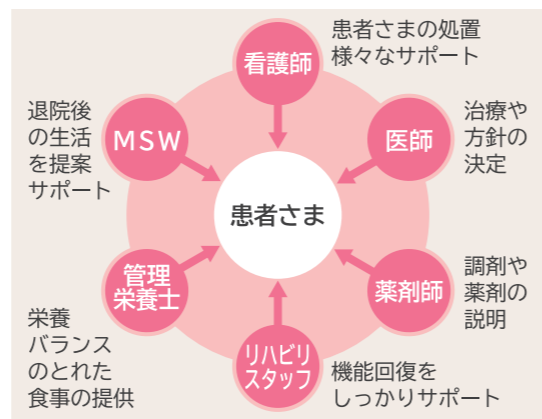
生活ではなく、点滴の時間以外は慣れ親しんだ自宅で生活ができます。うまく副作用がコントロールされれば仕事や趣味を続けることも可能です。

注意すべき点は副作用が出た時の対応です。副作用にどんなものがあるか?を知っておくこと、副作用が出た場合の対処を十分にご理解いただくこと、必要時は休日・夜間でも病院受診をしていただくことが必要です。外来化学療法の継続にはご家族のサポートが欠かせません。ご家族のご協力をお願いいたします。

外来化学療法の対象

化学療法を受けられる患者さまの中で、左記のような条件に合う方が対象です。
(1) 入院を必要とするような副作用や、長時間の点滴がない治療であること
(2) 副作用対処が自宅でできること
(3) 通院が可能であること
などです。ご本人・ご家族と医師、看護師、薬剤師などで相談し、

チーム医療



予約外受診の目安

左記のような症状があれば、予約外でも受診をしてください。その他、判断できない症状があれば、まずは電話でご相談ください。

予約外受診の目安

- 38度以上の発熱が続く
- 1日5回以上の下痢
- 吐き気や嘔吐が続き、食事が取れない
- 口内炎がひどく食事が取れない
- 日常生活に必要な活動ができない

このような症状があれば、無理をせず電話でご相談ください

当院の化学療法室の特徴

・ベッド4床、リクライニングシート1脚を備え、各ベッド・シートにはテレビを設置しており、リラックスして治療を受けていただけます。

化学療法室



お電話でのご相談において
電話：0896-58-2222

「外来で化学療法を受けている〇〇です」とお伝えください。

- 平日 8:30 ~ 17:00
化学療法室スタッフが対応します
- 土・日・祝・時間外(17:00 ~ 翌 8:30)
救急担当スタッフが対応します

まとめ

化学療法を受けられる場合は、外来通院での治療も選択肢としてお考えください。がん化学療法を、より安全に長く続けられるようにスタッフ一同でサポートさせていただきます。

(参考文献: コンセンサス癌治療 2012年「外来化学療法の実際」最新のベストプラクティス」 P181-186)



脳神経外科
医長
しのはら なおき
篠原 直樹

機能的脳神経外科診療
を開始しました

本年より、愛媛県でも一部の病院でしか行われていない機能的脳神経外科の診療をスタートしました。

機能的脳神経外科とは、あまり聞いたことのない言葉ではないかと思いますが、近年急速に発展している分野です。

現在、当院で治療可能な病気は、「痙縮(けいしゆく)」「疼痛」です。「痙縮」とは、脳卒中や頭部外傷などで麻痺が生じた上肢や下肢の筋肉が自分の意志とは無関係に縮んでしまう症状のことです。健康な方の場

- 5. 思うようにリハビリテーションが行えない
- 6. つきっきりの介護が必要である



合では脳や脊髄からの筋肉を縮める命令と筋肉を緩ませる命令がバランスよく行われ、スムーズに体を動かすことができるのですが、痙縮の方は2つの命令のバランスが崩れ、筋肉を縮める命令が強くなり、腕や指が曲がったり、足が突っ張ったりし、固くなってしまいます。これによりリハビリや日常生活、介護で支障をきたすようになります。

痙縮の症状

筋肉がつっぱり、動きにくいことはありませんか？

- 例えば日常生活の中で、下記のようなことで困っていませんか？もしかしたら『痙縮』かもしれません。
- 1. 歩行・着替えなどが行えない・行にくい
- 2. 食事が思うようにできない
- 3. よく眠れない
- 4. 体にしめつけ感や痛みがある

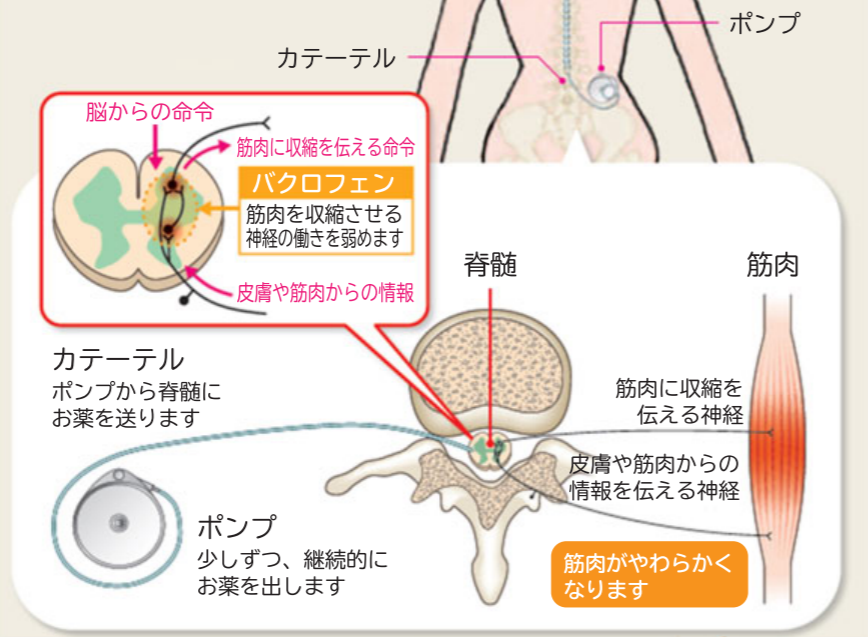
バクロフェン髄注療法

この治療として、バクロフェン髄注療法を行っております。

これは、お腹に埋め込んだ「ポンプ」から「カテーテル」という管を介してバクロフェンというお薬を脊髄周囲に直接送ることで痙縮の症状を和らげ、筋肉をやわらかくする治療法です。症状に応じてお薬の量を調整することで、強い痙縮でもコントロールするこ

バクロフェン髄注療法

痙縮をやわらげることで日常生活の幅を広げたり、生活の質を高めることを目的としています。



けでなく、リハビリテーションも行いやすくなり、運動機能の回復も期待できます。

まず、ポンプなどをお腹に入れる前に、バクロフェン髄注療法(ITB療法)を行うことで効果があるかどうかを確認します。腰からバクロフェンを脊髄周囲に注射します。その後、およそ24時間の間に症状が改善されるかどう

ボトックス治療

かを確認します。通常2日間入院して効果の確認をいたします。

また、当院では脳卒中や頭部外傷などの急性期治療だけでなく、回復期リハビリテーションも提供できる体制をとっており、患者さまの機能回復を目指していますが、麻痺や痙縮の後遺症が残る患者さまもいらつ

しゃいます。こうした患者さまの機能回復や介護療養のための治療のひとつとして、上下肢痙縮に対するボトックス治療を開始しています。ボトックス治療とは、過緊張が認められる筋にボツリヌス毒素製剤を注射します。ボツリヌス毒素製剤は神経筋接合部で神経終末に作用し、アセチルコリンの放出を抑制します。これにより、アセチルコリンを介した筋収縮が阻害され、筋の緊張を改善します。作用は局所性で、臨床効果はおおむね2〜3日で現れ、1〜2週間で安定したのち、3〜4カ月間程度持続します。他の治療法との併用も可能です。効果が得られた場合には、必要に応じて反復投与が可能です。必要に応じて反復投与が可能なであり(投与間隔は12週以上)、症状の推移をみながら徐々に他の部位へ治療範囲を広げることが可能です。副作用として、過度の脱力などが生じることがありますが、一般に一過性・可逆性です。

脊髄硬膜外刺激
電極埋め込み術

この治療法は、「疼痛」など薬では治まらないような痛みが対象になります。例えば、脳卒中後の痛み、脊椎手術後の痛み、癌による痛みなどの治療として、一般的に行われております。これは、脊髄の硬膜外に小さな電気刺激装置を埋め込み、微弱的な電気パルスで脊髄を刺激し、痛みを緩和させる治療法です。

麻痺や痙縮の後遺症に対して機能回復や介護療養のひとつボトックス治療



バクロフェン髄注療法の期待される効果

- 固くなっていた下肢の筋肉・関節をやわらかく、動かしやすくする
- 筋肉のけいれん(攣縮:スパズム)をおさえる
- 胸やおなかの締め付け感をおさえ、呼吸を楽にする
- 痙縮による痛みをやわらげる
- 睡眠障害を改善する
- 日常動作の改善(着替えや体の清浄、トイレでの便座への乗り移りなど)



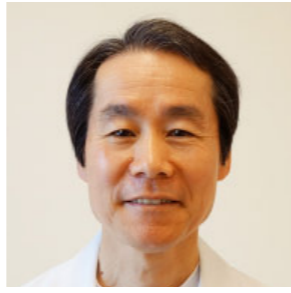
とができます。数年前より保険適応となり、多くの患者さまで非常に効果があったとの報告があります。痙縮が改善されることで、生活の質が向上するだ

機能的脳神経外科の診療は下記までご予約をお願いします。予約受付: 牀・トセンタ- 0896-58-2226

診療担当: 篠原 直樹
診療曜日: 月(午前) 金(午前)

4月より地域サテライトセンターに新しく2人の先生が着任されます

患者さまへひとこと——脳卒中や脳腫瘍などの脳神経疾患の予防や治療を担当できます。患者さまの納得できる、より良い治療を心がけていきたいと思えます。なんなりとご相談下さい。



脳卒中センター
センター長
くもん よしあき
久門 良明

専門分野——脳神経外科(脳卒中や脳腫瘍など脳神経疾患の治療)
専門医、認定医など——日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本神経内視鏡学会認定医

所属学会——日本脳神経外科学会、日本脳卒中学会、日本脳卒中の外科学会、日本脳腫瘍の外科学会、日本神経外傷学会など
出身大学——県立和歌山医科大学
卒業年度——昭和52年卒業

モットー——誠実、堅実、結実



整形外科
部長
なほひこ ましま
間島 直彦

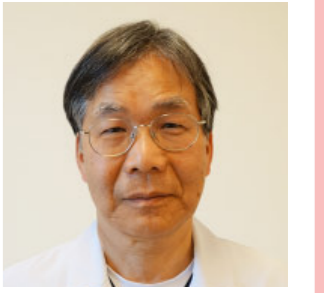
専門分野——関節外科、人工関節、スポーツ整形、四肢関節外傷学、骨関節感染症、四肢の変形矯正延長
専門医、認定医など——日本整形外科学会認定医、日本体育協会公認スポーツドクター

所属学会——日本整形外科学会、日本人工関節学会、日本股関節学会、日本関節鏡・膝スポーツ整形外科学会、日本創外固定・骨延長学会
出身大学——愛媛大学
卒業年度——昭和62年卒業

モットー——正確な術前計画と確実な手術、患者さまにあった治療

患者さまへひとこと——整形外科疾患に受傷や罹患することで、著しく日常生活が制限されるQOL(生活の質)が低下してしまいます。学生や青壮年の場合、スポーツや仕事で本来のパフォーマンスが発揮できなくなります。笑顔のある日常生活を取り戻せるように、正確な診断と確実な治療を行っています。お気軽にご相談ください。

新任医師紹介



外科
部長
きやす よしと
喜安 佳人

専門分野——消化器外科
専門医、認定医など——日本外科学会指導医、日本消化器外科学会指導医、日本外科学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本胸部外科学会認定医、日本消化器外科学会
消化器がん外科治療認定医

所属学会——日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会、日本胸部外科学会、国際外科学会、国際胃癌学会、日本胃癌学会、日本癌学会
出身大学——鳥取大学大学院
卒業年度——昭和54年卒

モットー——前向きに生きること
患者さまへひとこと——患者さまのことを考え、患者さまと話し合い、患者さまに向き合った医療を提供できるように、患者さまのために研鑽していきたく考えています。

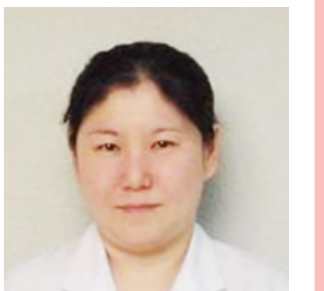


婦人科
医長
おがわ はるき
小川 晴幾

専門分野——産婦人科一般
専門医、認定医など——日本産婦人科学会認定医、母体保護法指定医、日本がん治療認定医機構暫定教育医
所属学会——日本産婦人科学会、日本産婦人科医会、日本女性骨盤底医学会、日本婦人科腫瘍学会、日本周産期・新生児医学会
出身大学——大阪大学
卒業年度——昭和57年卒業

モットー——笑顔を絶やさな
いこと
患者さまへひとこと——他人には話しづらい女性特有の病

気も、あるいは病気とは思われないけれど気に係る体の不具合も皆様に寄り添いながら診療を進めていきたくと思っています。



回復期リハビリテーション病棟
医長
いのうえ あい
井上 愛

専門分野——リハビリテーション科
専門医、認定医など——日本リハビリテーション医学会専門医
出身大学——愛媛大学
卒業年度——平成8年

モットー——「素敵」と、ときめくことが幸せです。人生の階段を一步上った患者さまのきりつとした紳士、淑女の横顔は本当に「素敵」です。今後のモットーは「ときめきたい」ということでしょうかと思います。患者さまへひとこと——リハビリテーションとは、障碍と対峙し、一人ひとりが最高の形で社会復帰することを目標として行われるプロセス全般を指します。療法士による機能訓練は、その一部に過ぎません。自己訓練プログラムを習得され、自宅で継続して努力される行為もまた、とても素敵なりリハビリテーションです。

形成外科・美容外科強化

● 形成外科・美容外科 なかにし ひでき 中西 秀樹

脊椎・脊髄疾患の低侵襲手術への対応強化

● 脳神経外科 まつい せいし 松井 誠司

周術期・入院中口腔ケア、早期退院支援

● 歯科 さか むねひさ 坂 宗尚

当院では、さらに手厚い医療の提供のための体制を図ります。形成外科・美容外科では、中西秀樹先生がさらに力を入れていただき、より手厚い医療が提供できるようになります。

脳神経外科では、松井誠司先生が脊椎・脊髄疾患などを専門とし、高齢者特有の疾患に対応いたします。

新しく歯科が開設され、坂宗尚先生が非常勤にて勤務されます。歯科は、周術期や入院中の患者さまへの口腔ケアを行い、周術期や抗がん剤治療の口腔ケアや合併症予防を行うことで、早期退院に向けた支援を行います。

Staff COLUMN スタッフコラム



看護部
副部長
しらた ともみ
白 智美

桜の花びらが空を舞い、春が本格化してきて、昨年の開院当時は思い出しています。今年の1月より看護部副部長を拝命した白田と申します。よろしくお願ひ致します。

開院してから約1年が経ち、当初構築していた業務は、紆余曲折ありましたが、患者さまにご迷惑をおかけしないように努めて、何とかここまで来ることができました。これから計画・実行・評価・修正を繰り返し、少しでも患者さまのそばでのケア・看護に努めていきます。

私は昭和62年に石川病院へ就職し、その後結婚・出産のため退職。平成元年に再就職して今日に至ります(約25年)。

働いていた当時に中学生だった方が、当院に看護師として勤め、「風邪引いて受診した時居ましたよね?」と声をかけられた時は、年を感じました。外来でお会いした患者さまから「あなたおつてよかったわ。まだ来よつたんじゃなあ」と声をかけてくださり、「続けてよかったですなあ」と一人喜んでいました。また、以前何度も手術を繰り返していた方が退院された後、「あの時はお世話になったなあ。店も手伝いよんで。」と近況を話してください、その時を思い出しお互い涙目になった事もありました。

私にとって、看護師は、患者さまと触れ合い、会話の中で指導や相談しあって信頼関係を築いていく仕事だと思っています。そのためには知識の習得や様々な経験を積んでいくことが必要です。これから、看護師であることの喜びを少しでも感じてもらえるように指導していきたくです。

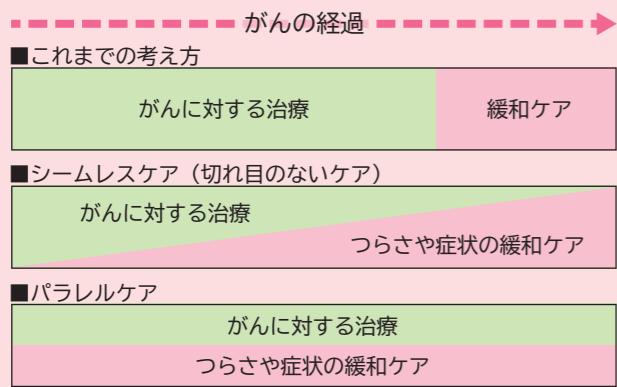
認知症講演会



平成26年2月13日、HITO病院在宅医療連携拠点センター主催にて、認知症講演会を開催し、地域より305名の方々にご参加いただきました。

講師・アドバイザーとして認知症介護研究・研修東京センター研究部部長/ケアマネジメント推進室長の永田久美子氏をお招きし、「認知症になっても安心して暮らし続けるために—ここまで可能になった新しい生き方・支え方—」をテーマとして講演いただきました。

がんの治療と緩和ケアの関係



アの取り組みなどを正しく理解していただくために、ホスピスの歴史や現状、WHOの定義から当院の緩和ケア病棟での取り組みまで幅広く説明されました。特に、がんの治療と緩和ケアの関係における新しい考え方で、切れ目のないケアを行っていく『シームレスケア』や最近注目されている『パラレルケア』について解説され、ホスピスで「生きる」ということについて一緒に考えてゆく機会とさせていただきます。

地域の課題を考えるこの町で暮らし、支えてきた。これから「もいっしょに」をテーマとしたシンポジウムも行われ、認知症のご家族を支えた経験のある方をシンポジストとしてお招きし、実際の体験談をもとに様々な悩みや問題に対してどのようなところへ相談し、どう対応してきたのか、認知症について地域で共に考えてゆく取り組みを行いました。

市民公開講座



平成26年2月16日、NPOニュースパイナルセミナー主催にて市民公開講座が開催されました。4人の講師の方が講演され、当院からは脳神経外科医長 篠原直樹医師による講演を行いました。

緩和ケア病棟

HITOサロン

平成26年3月24日、緩和ケア病棟にてHITOサロンが開催されました。

HITOサロンでは、がん患者さまとご家族の方々との交流を図り、がん向き合うことへの不安や悩み、体験談などを語り合いました。

また、医師や看護師など医療スタッフも一緒に参加し、情報提供やご相談を承りました。

脳卒中センター開設

一刻も早く治療が必要な脳卒中に対して、より迅速な診断・治療が提供できるように、平成26年4月に脳卒中センターを開設しました。久門良明医師をセンター長として体制を固め、罹患後の患者さまが、身体機能を最大限回復し、だからご自宅へ退院することができるようになりハビリテーションとの連携や支援も強化してまいります。

た。

今回のテーマは「せぼねからの手足のしびれ・痛み・腰痛セミナー—脳神経外科医が治す脊椎の病氣—」とし、手足のしびれ、痛み、腰痛、歩きにくさの原因と最新の治療について講師の方々が分かりやすく解説されました。

第3回地域医療講演会



平成26年2月20日、第3回HITO病院地域医療講演会が開催されました。今回のテーマは、「背骨が悪くなるとどうなるの?」と題して、HITO病院整形外科医長の山岡豪大朗医師による講演を行いました。

講演の内容は、脊椎疾患とその治療について正しく理解してい

新附属保育所

HITOKIDS

平成26年4月1日に附属保育所「HITO KIDS」を開設しました。四国では珍しい壁面緑化を採用し、環境に配慮した造りとなっています。平成元年より設けている附属保育所は、病棟から少し離れた場所にあり、多少の不便がありました。この度、病院の隣接地に新築し、お子様をあげて勤務する職員にとって、より便利で、より安心できるようにしました。



平成26年度集団栄養教室

平成26年度の集団栄養教室は、下記スケジュールにて開催いたします。

ただけるように、脊椎の役割から各種疾患とその治療・手術まで分かりやすく解説されました。また、腰痛診療ガイドラインによる慢性腰痛への対策や骨粗鬆症の予防まで、市民の皆さまの日常生活に密着した内容も講演されました。

第4回地域医療講演会



平成26年3月12日、第4回HITO病院地域医療講演会が開催されました。今回のテーマは、「ホスピスって死ぬための場所?」と題して、HITO病院緩和ケア内科部長の佐々木宏起医師による講演を行いました。

ホスピス・緩和ケア病棟についてネガティブなイメージが先行する中で、変わってきた緩和ケ

栄養教室は治療の一環として行っております。事前のお申し込みが必要ですので、3日前までに受付、または下記へご連絡ください。
お問い合わせ先：栄養課
TEL (0896) 29-5210

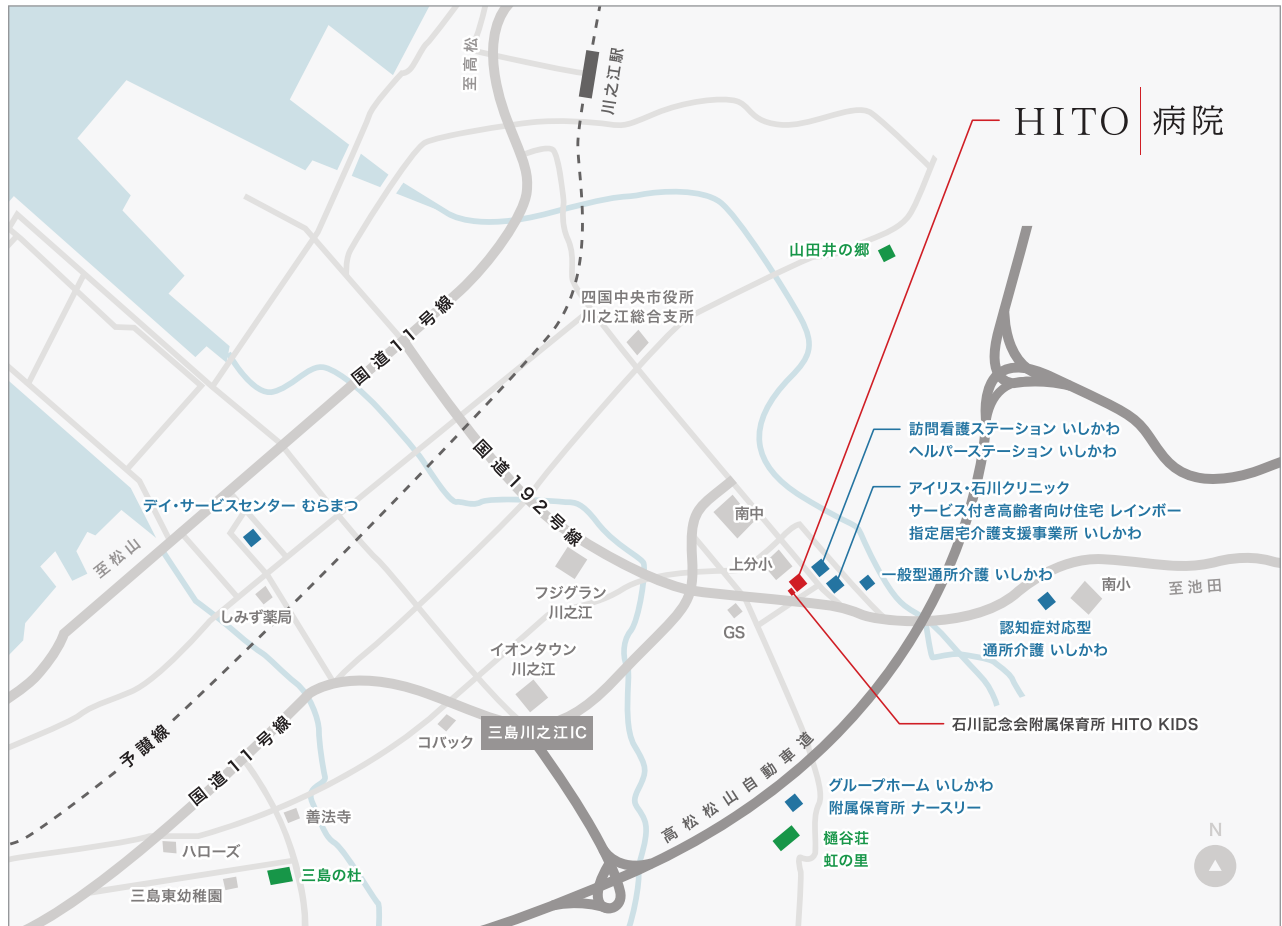
場所：HITO病院3階大会議室
費用：240円
講師：管理栄養士・医師・看護師・理学療法士
全9回の教室です

【テーマ/提供食】

- 5/17(土) 12:30~14:00 糖尿病の基本と検査/バランス弁当
- 6/7(土) 13:00~14:00 心臓病と塩分制限~塩分が多い食べ物ってどんな物?~/スープの飲み比べ
- 7/5(土) 12:30~14:00 食事と運動療法/バイキング
- 8/16(土) 13:00~14:00 脳梗塞と血圧管理/ジュース
- 9/6(土) 13:00~14:00 糖尿病のお薬の種類と低血糖 & シックデイ/野菜ケーキ
- 10/4(土) 13:00~14:00 嚥下しやすい食事と対処方法/トロミ剤を使ったデザート
- 11/1(土) 13:00~15:00 健康フェスタ(イベント)/健康食品 ※11月はお申込不要
- 12/6(土) 12:30~14:00 糖尿病合併症から体を守ろう/蛋白制限弁当
- 1/17(土) 12:30~14:00 低カロリー料理のコツ。脂質異常症を改善しよう!/低カロリー弁当

【日時】

- 5/17(土) 12:30~14:00
- 6/7(土) 13:00~14:00
- 7/5(土) 12:30~14:00
- 8/16(土) 13:00~14:00
- 9/6(土) 13:00~14:00
- 10/4(土) 13:00~14:00
- 11/1(土) 13:00~15:00
- 12/6(土) 12:30~14:00
- 1/17(土) 12:30~14:00



HITO 病院
Official Site



Facebook



LINE@



美容外科Be
Facebook



HITO 病院

社会医療法人石川記念会 HITO 病院
〒799-0121 愛媛県四国中央市上分町 788 番地 1
TEL:0896-58-2222 FAX:0896-58-2223 URL:hito-medical.jp